

『三四郎』 広田先生の名前

Junko Higasa 2014.4.22

広田先生の借家探しの最中のこと。『そのうち与次郎の尻が次第に落ち付いて来て、燈火親しむべしなどという漢語さえ借用して嬉しがる様になった。話題は端なく広田先生の上に落ちた。「君の所の先生の名は何と云うのか」「名は蓑」と指で書いて見せて、「はし艸冠くさかんむりが余計だ。字引にあるかしらん。妙な名を付けたものだね」と云う』

さて「漢語から」話題が落ちたところへ登場する「蓑」という字は「チョウ」の他に「いららぐさ」とも読む。「いらら」とは草木の刺のことであるが、ここで「漢語からの流れ」に着目すると、

隰有蓑楚 猗儺其枝 天之沃沃 樂子之無知

隰有蓑楚 猗儺其華 天之沃沃 樂子之無家

隰有蓑楚 猗儺其實 天之沃沃 樂子之無室

という詩経(檜風)に思い至る。大意は「湿地に蓑楚という木あり。しなやかで若々しい～その枝は知命なきを楽しみ、その花は家なきを楽しみ、その実は配偶者なきを楽しむ」

「楽」には音楽を奏でるという意味があり、そういう人生を奏でているということだろう。因みに孔子の楽の師に死後血が宝石になった蓑弘という真心の人がいた。天命を知らず、出世欲のない広田先生は家もなければ妻もない。自然に従って生きている。だから欲得の世では「偉大なる」暗闇なのである。